

わたつみの

豊旗雲に

入日さし

とよはたぐも

いりひ

こよい つくよ

あき

今夜の月夜

清明らけくこそ

なかのおおえのおうじ

中大兄皇子 卷一・十五

まちが 間違えずに よ 読めました! 年月日	あんしょう 暗唱できま した! 年月日
おうちの人に シールをはっ てもらおう	おうちの人に シールをはっ てもらおう



【意味】海の上はるか、旗のようになびいている雲に、夕日の光がさし美しく輝いている。今宵の月は、きっと清く明るいことであろう。

【解説】作者の中大兄皇子は、大化の改新の中心人物。後の天智天皇です。

「わたつみ」というのは、元々海の神のことで、やがて海そのものの意味にもなりました。「豊旗雲」は、旗のようになびいた雄大で美しい雲を誉めて言った言葉で、作者の造語です。海と空を見渡す、雄大な歌です。

万葉人からのメッセージ

美しい夕焼け雲の向こうに輝く明日がある